

ペットの様子がおかしいとき、どんな症状であれば、すぐに病院へ連れて行くべきなのでしょう。2回に分けて「病院に駆け込むべき10の症状」を紹介します。



①交通事故 大けがはもちろん、見た目に異常がない場合も、脳や内臓にダメージを受けていることがあります。

「歩けるから大丈夫」とは決して思わないでください。

②誤飲 おもちゃなどの「モノ」から、殺虫剤やたばこなどの「毒物」まで誤飲物はさまざまです。たとえ少量でも命に関わることは少なくありません。

③外陰部からの膿 避妊手

あ
ん
し
ん
！
ペ
ツ
ト
ラ
イ
フ
⑫

病院に駆け込むべき10の症状 ①

術を受けていない雌の犬（猫ではまれ）では、子宮に膿がたまる「子宮蓄膿症」が多発します。特に発情後2カ月以内に起きやすく、外陰部から膿が出ることがあります。手術が必要となるケースが多い病気です。

④けいれん 脳の病気（てんかんや脳炎など）だけでなく、低血糖などでも起こります。意識がなく身体がびくびくと動くような典型的な症状だけでなく、硬直したり、ゆらゆら揺れたり、さまざまな症状があります。動画を撮影するなどして、獣医師に見

てもらいましょう。

⑤呼吸困難 呼吸が荒い▷苦しそう▷異常に咳込むなどの呼吸器症状には注意が必要です。酸素が重度に不足すると、舌が紫色に変色します（チアノーゼ）。特に、心臓病を持っているケースは要注意です。

このようなときはできるだけ早く病院へ。判断に迷う場合は、かかりつけの獣医師や救急病院に連絡し聞いてみるのも重要です。

（アニコム獣医師

小川篤志）

＝①は17日に掲載します